

〒384-0006 小諸市与良町 6-5-5

TEL.0267-31-0250 (代)

FAX.0267-31-0140

http://www.pref.nagano.lg.jp/

toshinkyō/index.html

平成 31 年(2019 年) 2 月 25 日(月) 発行 No.9

東信教育事務所だより「響」

連載「響く声」

来年度の学校訪問について

先日行われた研究主任研修会で、「訪問支援の形態や内容について詳しく知りたい」というお声をいただきました。そこで、『ゾーン訪問』と『単元訪問』についてご説明します。

—No.9 の内容—
◆連載「響く声」
来年度の学校訪問について

◆連載「初任研①」
2年次プロセス研修より

◆連載「初任研②」
1年次プロセス研修より

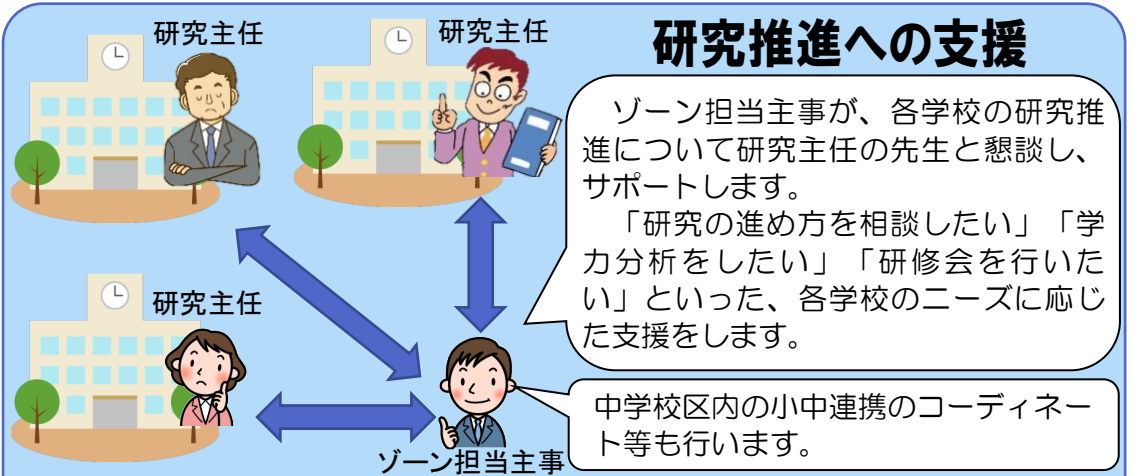
◆特集「信濃の国」

◆舎窓から

◆生涯教育課より

各地区のゾーン担当主事が 研究推進のサポートをします

ゾーン訪問



一年を通じて各学校を支援します

学期に1回を目安に
各学校を訪問します

1学期

研究推進の計画立案等について懇談

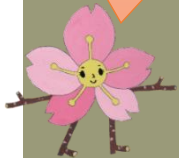
2学期

学調等分析・研究会の充実に向けた相談等

3学期

今年度のまとめ・次年度への方向についての懇談等

研究主任の先生のサポートをしてくれるんだね。



教科会やグループで単元づくりに取り組んでみよう！



先生方と一緒に 単元づくり・授業づくりを進めます

単元訪問

単元訪問は3回の訪問がセットです。



単元づくりを通して 継続的な支援をします

単元構想

単元構想シート等を用いながら、単元の構想を共に行います。

授業

単元の中の1時間を参観します。授業後の懇談や研究会(全校)での支援をします。

単元の振り返り

単元終了後に、振り返りの時間を取り、単元全体の成果と課題を共に考えます。



学年会や教科会、研究グループと共に指導主事が単元構想から振り返りまでを継続的に支援します。

連載
「初任研①」
2年次
プログレス
研修より

2年間の教員生活を振り返り、 5年目の教師像をえがく

今年度で初任2年目を終える先生方が42名集まり、「2年次プログレス研修」を行いました。



「自分の気持ち・発見を伝えたいという学級・授業をどうつくるか」という明確な課題をもち、子どもと共にその課題に取り組んできたS先生の姿を紹介します。



自らの実践を語り、仲間の実践から学ぶ

互いの実践を自分事として受け止め、語り合いました。

自分の実践を語る

相手意識や伝えたいと思う内容をもつには、「総合的な学習の時間」が有効だと考えました。

そこで、6年生として地域の歴史や良さを仲良し学年の1年生に広めたいという願いを大切に活動しました。

仲間の実践に伝える

「見積もりの概念」を理解するために、100円前後のおかしをいくつか用意して、3つ買うときに300円で買えるかどうか考えてみたよ。

まだ、数の概念があまりもっていない子供にとって、具体物で考えるのはいいよね。

2年間の教員生活を終え、更に自分自身を高めていこうと新たな夢を抱く研修会になったようだね！



こんな教師になりたい～キャリアデザインを～

中村課長から、「教師という職業には完成したゴールはない」という話を聞いた後、「5年目(3年後)には、こんな教師になりたい」という教師像を思いえがいて、互いに伝え合いました。

「対話が活発に行われる学級、子どもの考えが他の子どもの新たな考えを導き出し、つながっていくような授業、学級経営ができる教師に！」

一人一人が目指す教師像に向け、3年目の具体を考えました。



連載

「初任研②」

1年次
プログレス
研修より



4月に「子供たちと一緒に授業・学級をつくっていきたい」という思いをもって教壇に立ったM先生。悩み、戸惑いながらも、子供と共に歩んできたM先生の様子を中心に研修の様子をお伝えします。



2年目の光が見えた研修となったね。この1年で、初任者の先生たちも、大きく成長したね！



「2年目の先生」と「同期の仲間」の話から、2年目に向かう自分を思いえがく

憧れのまなざし パネルディスカッション

2年目を終える3名をお迎えしました。1年目の苦労、壁を乗り越えたエピソード、2年目のやりがいなど語っていただきました。

困ったときは、とにかく聞きました。聞くことは決してはずかしいことではありません。2年目は1年目と違い、校務分掌など担当することが増え、大変さもありますが、期待されているって思うと、やりがいになりました。



共感と刺激 グループ討議

4人グループになり、実践をもとに語り合いました。M先生は、2学期から飼いはじめたヤギ(みこちゃん)との暮らしについて活動の写真も示しながら発表をしました。グループ討議の様子です。

- A先生:「生活科の時間。失敗させちゃいけないって思っちゃう。でも、よく見ると、使う道具から学んでるんだよね。」
 B先生:M先生は、ヤギを通してどんな力をつけたいの？
 M先生:こういう力とかじゃなくて、子どもを知りたい感じ。
 B先生:う〜ん。なるほどね。
 C先生:動物愛護にも繋がっていくね。
 M先生:苦しいことも、結構あるよ。
 B先生:こっちからの押し付けになっちゃいけないよね。

改めて“子どもを見る”ってどういうことなのか？って考え始めました。ありのままの子どもを受け止められる人になりたいと思いました。また、その子の前に立つ自分自身は「本当にそれでいいのか」問い続けていける、誠実な人でありたいと思いました。

関わったすべての先生方に“感謝” 振り返り

1年前、初めて子どもの前に立った時の「嬉しい！」を思い出しました。

振り返りの最後の一文。1年間を振り返るうち、“あの時のみんなを前にした私”がよみがえってきたようです。あの時から始まったこの1年が、校内の多くの先生方の支援のおかげであったことへの感謝を確かめる機会となりました。



連載
「舎窓から」

名前をきっかけに



カルブの由来は独語の鯉です

学校訪問をさせていただく中で、自分の名前に感謝する出来事があった。低学年のある教室に入ると、子供たちが私の名札を見て、「保育園の先生の名前も“あかね”だったよ」と話しかけてくれた。これをきっかけに、子供たちと話すことができ、私はとてもうれしかった。私の名前が平仮名なので、読みやすかったのかもしれない。小さい頃は習字で書きにくくて困ったが、このとき改めて、平仮名の名前をつけてくれた親に感謝した。

名前に関して忘れられない出来事がある。教員採用試験の面接でのこと。緊張して面接室に入ると、面接官からの最初の質問が「あかねさんはなぜ“あかね”という名前なのかですか」であった。予想外の質問に戸惑ったが、「親からは…という理由と言ってと言われていますが、実は違って…」と本当の由来を答えた。面接官が笑ってくれ、一気に和やかな雰囲気になった。しかし、なぜ面接官はその質問をしたのかと今になって思う。緊張を解くためとそのときは考えていたが、もっと深い理由があったのではないか。

学校訪問では座席表をいただくことが多い。一人ひとりの名前に込められた保護者の方々の思いを感じる。もし子どもたちが面接官の質問と同じことを聞かれたら、子供たちははにかんだ表情を見せながらうれしそうに答えるだろう。

(文責：清水 あかね)

特集
県歌「信濃の国」
制定 50 周年⑥



〈六番〉
吾妻はやとし日本武
嘆き給いし碓氷山
穿つ隧道二十六
夢にもこゆる汽車の道
みち一筋に学びなば
昔の人にや劣るべき
古来山河の秀でたる
国は偉人のある習い

けんか
「信濃の国」
制定 50 周年⑥

「信濃の国」が県の歌である県歌に決まってから、今年でちょうど50年！今回は最後の六番です。今では新幹線であつという間に東京に行けますが、当時は大変だったのです。夢を運んだ鉄道のように一生懸命に進もうとみんなを励ましています。

〈意味〉

日本武尊は長野県に入るとき碓氷山で、亡くなった妻のことを思い出して嘆いたと言われています。その碓氷山(軽井沢・横川間)には、信越線の開通のために26ものトンネルが掘られ、蒸気機関車で山を越えることができるとは夢のようなことです。汽車が一つの線路をひたすら走るように一生懸命に勉強に励めば、昔の人より劣るはずはないのです。なぜなら昔から、美しい山や川などの自然に囲まれた長野県では、すばらしい人物が育っているからです。

「信濃の国」は、県外に住む長野県出身の人が集まると必ず歌うそつです。心を一つにする県歌なのです。意味や歴史も考えて、大切に歌っていきましょう。

作成…長野県教育委員会 教学指導課・企画振興部 広報県民課



「信濃の国」を作詞した浅井淵先生の旧居跡(長野市妻科)

* 学年だより等でこのまま紹介することも可能です。

社会教育

「学社連携意見交換会」 研修会を一本化します。 「子どもが育つ地域共育フォーラム」

これまで7月に開催していた「学社連携意見交換会」と10月に開催していた「子どもが育つ地域共育フォーラム」ですが、1月17日に開催されたフォーラム実行委員会で、来年度から「子どもが育つ地域共育フォーラム（兼 学社連携・協働意見交換会）」として開催することに決定しました。

日時は10月31日（木）13:20～。佐久市佐久平交流センターを会場として、講演会と6つの分科会の発表を計画しています。分科会の中で学社連携・協働について意見交換会を行い、佐久地区と上小地区の事例発表に学んでいただきたいと思います。

私たちの願いはすべての子どもたちの笑顔と健やかな成長です。信州型コミュニティスクールが充実し、学校と地域の連携・協働がさらに進むように、本フォーラムへのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

生涯スポーツ振興

障がい者スポーツに興味ありませんか？ リオパラリンピックで注目を浴びた「**ボッチャ**」について紹介します。

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

ジャックボールと呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

障害によりボールを投げることができなくても、勾配具（ランプ）を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。競技は男女の区別なくのクラスに別れて行われ、個人戦と団体戦（2対2のペア戦と3対3のチーム戦）があります。

障害の程度によりクラスが分かれており、同じクラスの選手同士が対戦します。

東信教育事務所には、道具が5セットあります。学校で体験してみたいかがでしょう。貸し出しいたします。ご相談ください。



社会人権教育

「社会人権教育」の現場から

人権教育は、学校だけでなく地域でも行われています。各市町村の人権教育担当課の皆さんや社会教育指導員さんの企画により、地域の公民館で様々な人権課題を取り上げた講座が開かれています。

地域の人権教育ですから、講師も、プロの講演家ではなく、障害のある方の共同作業やデイケアなど施設で働く方、地域のNPOの方など、各方面で地道に活動されている皆さんです。

写真は、「外国人の人権」をテーマに、ベトナムからの研修生が講師となり、日本で感じたことをご自身の言葉で語っている様子です。

日本在住の外国人の方の話、という、外国人差別のことを想像しますが、このお二人は、仕事の合間に参加した学校ボランティアの経験から、日本の子どもたちの人権意識の高さや学校教育の素晴らしさを教えてくれたのでした。

